

県外派遣報告書

審判員名	小柳 幸子	所属	ミニ連
大会名	平成27年度 第26回 関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	平成28年2月6日(土)～7日(日)		
会 場	小田原市総合文化体育館(小田原アリーナ)		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
2月5日(金)	審判会議	グランドホテル神奈中 平塚	
2月6日(土)	1、2回戦	小田原アリーナ	
2月7日(日)	準決勝、決勝	小田原アリーナ	
会議 講義 内容			
<p>《2月5日 審判会議》</p> <p>【関東ブロック長 安西氏より】</p> <p>ウィンターカップを終え編成間もない新チーム、インターハイ後に変わり半年経過しているチーム、4月からの新入生に期待しているチーム等、チームの意図はそれぞれである。我々が教わってきた事をしっかりとコートで示し、公正・公平に取り組み、大会を成功に終わらせて欲しい。</p> <p>【指名審判員 稲葉氏より】 ～シリンダーとリーガルガーディングポジション～</p> <p>判定材料(情報として持っていた方が良いもの)とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> * 技術、規則の理解 * 選手の特徴、チームの戦略 * 点差と時間帯(タイムアウトの残数等) * ファウルの数 * 対格差、フィジカルの違い(影響の現れ方) * 前のプレイとの相違 * 重要な選手とその守り方 <p>等を判定材料としてインプットし、判定としてアウトプットする。その中で最も重要なのが技術・規則の理解である。瞬間で判定する事はできないので、2人もしくは3人で分担・協力し、プレイの最初から捉え、判定の原則に従って責任の所在を判断し判定すべきである。早い段階で最初のプレイを捉え、判定基準を示す必要があるが、厳しくでは無くスタンダードな基準を示す。どちらのチームにも公正・公平に判定し続けなければならない</p> <p>【指名審判員 野口氏より】</p> <p>ファウルもヴァイオレーションも、どちらも疎かにする事はできない。不確かな根拠は判定が漏れ、試合の内容が違う方向に行ってしまう。曖昧なもの、根拠が無いもの、見えなかったものを吹く事はあってはならない行為であり、もし起こってしまった時には、信頼回復の為に見える所へ足を運び続けなければならない。チームとしては、誰がコートに立ってもきちんと運営をしてくれれば良い。始めて、無事に終わらせる事が重要である。ベンチから指導が出た時は、ほっとできるひとときでもある。</p> <p>《2月7日 レクチャー》</p> <p>【関東ブロック長 安西氏より】</p> <p>自分の目で確かめられなかった事には判定を下すべきでは無い。より良い角度・スペースを捉え続ける事が最低限のモチベーションであり、できないなら資格返上すべきである。コーチや選手の努力・観客に応えられなければ、4方向からのリスペクトはあり得ない。選手は確信犯であり、やった事・やられた事を覚えている。ファウルのタイミングや、どれを取るのか試してくる選手もいる。最初をこぼさないように、最低でも2回目には判定し繰り返しをさせない。判定はリアクションではなく、アクションを捉える。</p> <p>大事なの一貫性であり、個人もクルーも、出だしも終わりも、両チームへも同じ基準を示す。拠り所はルールであり、ルールに照らし合わせて”行為”を判定する。2人(3人)で協力し、きな臭さに目を付けて、意識をして見に行き現場にいる事が抑止力になる。</p> <p>ルールに精通し、技術・心理を理解し、コーチ・プレイヤーの要求は何かを考える。主観ばかりや言われた通りでは無く、コミュニケーションが取れることが大切である。</p>			

実技			
担当試合	期 日	2月6日(土)	男子 <u>女子</u>
	対戦カード	県立市ヶ尾(神奈川) VS 県立高崎女子(群馬)	<u>主審</u> 副審
	相手審判	中山 克則 氏(茨城)	
ミーティング内容		主任 村上 恵美 氏(神奈川)	
<p>1Qでのチームファウルのバランスが悪く、一方が5つに対してもう一方が0。チーム5つ目のファウルの際には、相手プレイヤーの影響まで確認し、慎重に取り上げる必要があった。オフェンス側の手の使い方に関して、もっと早く取り上げる事ができればファウルの数も減ったかも知れない。始まりからのゲームコントロールの意識が必要。</p>			
全体の感想			
<p>今大会をもってブロック大会をご勇退される野口氏と、大会をご一緒させて頂く事ができ、大変光栄でした。大会には、関東・東京の多くの仲間が会場に集まり、野口氏のお人柄と仲間との繋がりの強さを改めて感じました。同じ苦しみも楽しみも共有できる仲間が多い事は、審判活動の中で一番大きな支えであり、その存在と時間を無駄にしないよう、今後も努力し続けていこうと強く思いました。</p> <p>担当させて頂いた試合は、第一試合ながら延長戦と言う非常に厳しい試合となり、2点差での試合終了となりました。全ての試合が一瞬でも気を抜く事が許されないものですが、厳しい試合を終えた時、チームに関わる方々に納得して貰えるようになりたいと、改めて思いました。</p> <p>今大会では清水審判長を初め、神奈川県の皆様には細部に渡りご配慮を頂き、有り難うございました。また、今回もこのような機会を下さいました吉田審判長を初め、埼玉県協会の皆様へ、この場をお借りしまして感謝申し上げます。今回経験させて頂いた事もきちんと自分の力にし、自身が向上し、貢献できるよう精進して参ります。</p>			